

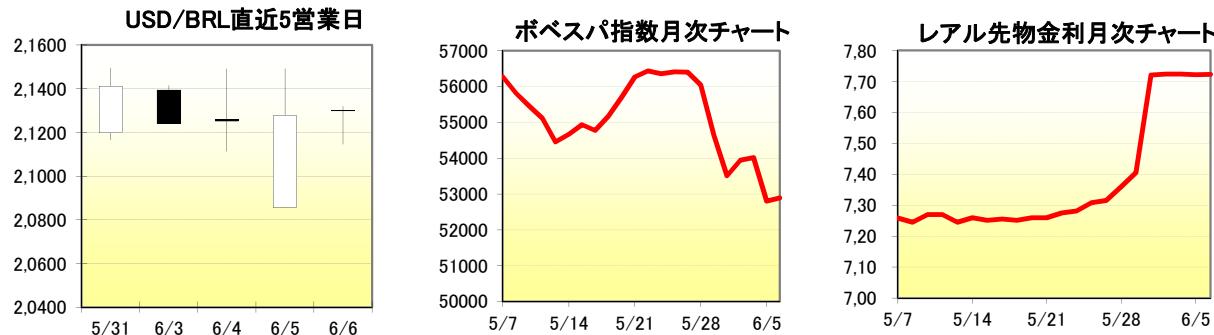
# Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



## 1. マーケット・レート

			6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	<b>6月7日</b>	Net Chg
<b>Forex</b>	USD/BRL	Spot	2,1270	2,1360	2,1310	2,1220	<b>2,1350</b>	+0,0130
	USD/YEN	Spot	99,49	100,01	99,15	97,38	<b>97,56</b>	+0,1800
<b>Swap</b>	EUR/USD	Spot	1,3073	1,3078	1,3094	1,3245	<b>1,3223</b>	-0,0022
	BRL/YEN	Spot	46,84	47,06	46,59	45,72	<b>45,76</b>	+0,0400
<b>Stock</b>	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,10	0,96	0,88	1,14	<b>1,17</b>	+0,0248
		1Year(p.a.)	1,29	1,20	1,16	1,30	<b>1,33</b>	+0,0270
<b>Stock</b>	Real Interest	6MTH(p.a.)	8,38	8,37	8,41	8,49	<b>8,49</b>	+0,0057
		1Year(p.a.)	8,70	8,69	8,78	8,89	<b>8,90</b>	+0,0103
<b>Bond</b>	Bovespa		53.944	54.018	52.799	52.885	<b>51.619</b>	-1.266,20
<b>Bond</b>	CDS Brazil 5y		146,33	150,18	153,31	156,00	<b>158,67</b>	+2,6660
	Global 40		120,425	120,425	120,275	120,025	<b>120,550</b>	+0,5250

\* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。



## 2. 主要経済指標

## 3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	なし
IBGEインフレ率-IPCA (前月比,5月)	0.38%	0.37%	0.55%	
インフレ率(IPCA)-IBGE (前年比,5月)	6.51%	6.50%	6.49%	

## 4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は U\$1=R\$2.1390 で寄り付いた。
- 週初のレアルは 5 月の米 ISM 製造業景況指数が市場予想に反して縮小し、過去 4 年で最も低い水準となったことから米資産購入ベースの減速観測が弱まり、レアルは 2.13 台半ばまで上昇した。
- 翌 4 日には 2.11 台前半まで続伸したが、メンデス伯中銀ディレクターが「レアルは他のエマージング通貨と同様に下落し、中銀の出番はない」とコメントしたことを見てレアルは一気に 2.1490 まで下落した。その後、同メンデス伯中銀ディレクターの「レアルが他のエマージング通貨よりも大きく下落した場合には中銀は行動を起こす」との追加コメントが伝わるとレアルはじりじりと 2.12 台前半まで反発した。
- 週央にかけてはマンテガ伯財務相が海外からの債券投資目的の資金に対する IOF 課税について 6% からゼロに変更することを通知したことを見てレアルは週間高値となる U\$1=R\$2.0860 を付けた。しかし同マンテガ伯財務相が IOF 税について「長期的な対策である」とコメントしたことを見てレアルは 2.12 台まで反落した後、ルセフ伯大統領が「ブラジルの為替相場はフリーフロー制でありドル（高）を抑えるための対策はない」とコメントしたことからレアルは一気に 2.1490 まで下値を拡大した。
- 翌 6 日にはマンテガ伯財務相がボベスパの CEO と会談する予定であったことから市場ではデリバティブ市場におけるドル売りポジションに掛かる IOF 課税が撤廃されるとの思惑が強まり、レアルは一気に買いが優勢となったが、IOF 課税撤廃の噂が正式に拒否されるとレアルは一気に 2.13 台まで反落した。
- 週末にかけては米格付け会社がブラジルの格付け見通しをネガティブに引き下げたことを受けてレアルは大きく下落し、週間安値となる U\$1=R\$2.1530 を付けたが、直後に大口の資金流入の噂が聞かれるとなればレアルは 2.1300 まで反発し、結局 U\$1=R\$2.1350 で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生じるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

# Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



## 5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
6/10	IGP-M Inflation 1st Preview		Survey	Prior
6/10	FGV CPI IPC-S	Jun	0.25%	0.03%
6/10	CNI設備稼働率(季調済)	39965	0.35%	0.32%
6/10	貿易収支(FOB)-週次	Apr	--	82.2%
6/10	ABCR Highway Transportation Report	jun/09	--	--
6/11	FIPE消費者物価指数(週次)			
6/12	Serasa Consumer Credit Delinquencies	39234	0.15%	0.18%
6/13	小売売上高指数(前月比)			
6/13	小売売上高指数(前年比)	Apr	1.6%	-0.1%
6/13	広義小売売上高(前年比)	Apr	3.7%	4.5%
6/14	FGVインフレ率-IGP-10(前月比)	Apr	8.6%	3.0%
6/14	経済活動指数(前月比/季調済)	Jun	0.44%	-0.09%
6/14	経済活動指数(前年比/季調前)	Apr	0.85%	0.72%
		Apr	6.95%	1.16%

## 6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.10-2.16

今週は国内では COPOM 議事録が発表され、インフレに対する懸念が強まっており、今後もインフレ抑制のために利上げを持续するであろうとのタカ派寄りの内容となったほか、ブラジルの格付け見通しがネガティブに引き下げられたこと等を受けてレアルは 2009 年 8 月以来となる 2.15 台を受けた。来週は米鉱工業生産や小売売上高を中心に多くの主要指標が発表され、引き続き米資産購入ペースの先行きに注目が集まり、方向性次第で更なるレアル相場への影響も考えられ、ボラティリティーも引き続き高いことが予想されることから注意が必要であろう。